

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】	
事業所番号	4271900211
法人名	有限会社 寿恵会
事業所名	グループホーム あがたの里
所在地	長崎県対馬市上県町佐須奈乙4 6 2 番地 2 (電 話) 0920-84-2528
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5 番 3 号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年1月16日

【情報提供票より】 (平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要	
開設年月日	平成14年5月10日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	9 人 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要	
建物構造	木造 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)				
家賃(平均月額)	3,000円		その他の経費(月額)	6,000円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,000円			

(４) 利用者の概要 (12月1日現在)					
利用者人数		7 名	男性	1 名	女性 6 名
要介護 1		2 名	要介護 2		1 名
要介護 3		1 名	要介護 4		2 名
要介護 5		1 名	要支援 2		名
年齢	平均	80 歳	最低	52 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関	
協力医療機関名	長崎県離島医療圏上対馬病院、上対馬歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】
民家を改修した家庭的な環境の中で、「老いても、障害を持っても、自分らしく、普通に暮らしたい」の理念の基、利用者の入所前からの生活歴を大切にし、利用者本人が好きな様に生活できるよう支援している。かかりつけ医ではない歯科医師から往診に来てもらったり、避難訓練の際に地域の消防団に協力してもらったりと地域との連携も取れている。年に数回花見等に利用者全員で出かける他、地域の旬の食材を献立の中で使用する等、季節感を感じながら生活できるよう心がけている。

【重点項目への取組状況】	
重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	前回の外部評価での要改善事項でホーム便りの作成や家族会の結成については、検討はされていたが実施までには至っていない。身体機能の維持・緊急時の対応については、研修を受講し対応している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
重点項目②	自己評価の意義や目的を踏まえた上で管理者が自己評価を作成し、全職員で確認・修正を行っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議の討議内容は外部評価の結果の公表の他、より良いグループホームにしていくための課題等である。しかし運営推進委員からの意見が出されていない現状であり、ホーム側からの事前提案も含めて、意見や要望を出しやすい体制作りへの取り組みが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
重点項目④	家族の来所時や電話で、利用者の状況について報告している。現在までのところ苦情は出されていないが、グループホームの苦情受付担当や市の窓口については説明されており、マニュアルも整備されている。今後家族会の設置を検討する予定である。
	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
重点項目④	自治会に加入しておらず、地域の行事がない為参加もできないが、隣家とは交流がある。避難訓練の際に地域の消防団にも協力してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は事業所独自の理念であり、理念そのものでは地域との関係性について表現していないが、理念を基にした基本方針の中で家族や地域・関係機関との連携してのサービス提供に努めることを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング時に理念の確認をしている。利用者がどうすれば毎日を快適に過ごせるか、理念を具体的なケアに繋げるよう検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での行事がない為行事への参加はないが、職員同伴で利用者が散歩する際に挨拶を交わしている。また自治会には参加していないが普段から隣家との交流があり、物をもったり、敬老会時等に行き来している。	○	今後家族の承諾を得て自治会等に参加し、隣家以外の地域住民とも交流が図られることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については管理者が作成したものを全職員に配布し、職員が確認・修正した物を再度管理者がまとめている。前回の外部評価時の要改善事項については、検討したが改善に繋がる具体的な取り組みは実施されていない。	○	外部評価の結果については公表・検討にとどめることなく、改善計画等を立てて実施に取り組むよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、参加メンバーは利用者家族の代表、民生委員、地域包括支援センターや市の職員等である。外部評価の結果報告やホームが更に良くなる為にはどうしたら良いかが検討されている。しかし参加者からの意見はほとんど出されていないのが現状である。	○	参加者からの意見を出してもらえるようにグループホーム側から推進委員へ質疑回答を得られるような投げかけをし、推進委員の意見を反映した取り組みや改善ができるように期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである市の職員とは日頃から意見交換を行っている。市の担当者が書類をホームに持参するので、その際に会話している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は来所時や電話で行っている。金銭管理については、社協の権利擁護事業に委託しているのでホームでの預かりはほとんどない。	○	来所時や電話だけの報告ではなく、利用者の暮らしぶりや行事の際の様子等をホーム便り等で知らせることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から来所の際に家族に声かけを行っているが、現在までのところ苦情は出されていない。入所時にグループホーム内の苦情受付窓口や市の窓口について説明している。苦情解決の方法がマニュアルに整備されている。家族会については設置されていない。	○	家族会については今後設置を検討したいとのことであり、職員と家族の交流の促進や家族の意見を活かした運営に繋げていけるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各利用者の担当職員を決めているが、全職員で介護を行っており、担当職員以外とも利用者は顔馴染みの関係ができていますので、利用者へのダメージも抑えられている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員・パートの区別なく、職員の能力等に 応じて、研修の受講を支援している。研修に 参加した職員には研修報告書を作成してもら い、ミーティング等の際に発表し内容を共有 している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業 者と交流する機会を持ち、ネットワー クづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通 じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている	グループホーム連絡協議会の際に意見交換を 行ったり、近くのグループホームとお互いの ホームの課題等について話し合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	民生委員とケアマネージャーが、看護サマ リー等から生活歴を把握している。入所直後 は家族の来訪を多くしてもらい、利用者が早 く馴染めるように家族と話し合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	新聞折り等、利用者ができることを一緒に生 活する中で把握して支援している。洗濯物を たたんだり、一緒に食事をする中で利用者か らねぎらいの言葉をかけてもらうこともある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族から聞いた利用者の話を参考にして、日々の会話や表情から本人の希望や意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが介護日誌等を参考にして介護計画を作成している。作成後の介護計画を家族に確認してもらい、承認をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の利用者の生活の中で介護計画に繋がる事項は個人記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。特変時には介護計画の追加・見直しを行い、申し送り等で内容が共有できるようにしている。特に変化がない利用者でも、定期的にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて出された通院や送迎・その他介護についての要望等については、柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在までのところ、入所前からのかかりつけ医を利用したいという利用者がいないため受診支援は行っていないが、希望があれば対応できる体制がある。家族と連絡を取り、通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際の話し合いは出来ているが、早期からの方針の共有等は図られていない。	○	重度化した際に利用者本人や家族がどうしたいか早期から話し合いの機会を作ると共に、職員間でどのように重度化に対応していくかの指針等の作成に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の一切の生活情報や入所情報をもらさないようにとの指導を職員にしており、プライバシーの確保を徹底している。日々の言葉遣いや態度に配慮し、利用者の人格を尊重する心を持って接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「自分らしく、普通に暮らしたい」の理念が実践されるよう、利用者にとって危険な事以外は、なるべく利用者の好きな様に生活できるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて刻み食等対応している。職員全員で2班に分かれて献立作成をしており、グループホーム内で栽培している椎茸等季節に合った物や利用者が好む物を出すようにしている。介助が必要な利用者が多い為利用者と職員と一緒に食事は取れていないが、職員は介助しながら利用者と会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在週2回の入浴日を設定しているが、シャワー浴はいつでもできるようにしている。本人の希望に応じて入浴の順番を決めている。入浴を嫌がる利用者には時間を置いて声かけをしたり、入浴の気持ち良さを話して本人が入浴を希望するように促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在の利用者の状態では手伝えることが少なく役割を持ってもらうことは難しいが、その中でも手伝える範囲で職員同伴で洗濯物をたたんでもらう等の手伝いをしてもらっている。カラオケ等の楽しみごとや散歩等の外出支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に行きたい等の利用者の希望は支援するようにしている。車椅子の利用者についても外出頻度は変わらない。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。昼間は鍵をかけず、センサーで玄関の人の出入りを把握したり、見守りで対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力のもと、年に3回避難訓練を行っている。これまでの災害の経験を基に、災害対策マニュアルを作成し対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は把握されているが、水分摂取量については把握されていない。利用者の嗜好は生活歴や日々の生活の中から把握している。専門家による栄養バランスのチェックは受けていないが、職員が栄養バランスを考えた献立を作成している。	○	食事の摂取量だけでなく、水分の摂取量についても記録を取ることに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	就寝の際に廊下の電気等が反射して眩しいということがないように配慮している。使用する食材やグループホームの周りの植物等で季節感が感じられるようにしている。居間兼食堂は窓が大きく取っており、日当たりが良くなるようにしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の持ち込みに制限はしておらず、テレビやこたつ等利用者が好きな物を持ち込んでおり、それぞれの部屋で違った雰囲気である。		

※  は、重点項目。